

文字摺通信

第 115 号
2026年 7月 1日
発行:文字摺歴史文化社

＝天明6年磐城郡泉崎村大馬金蔵『伊勢参宮道中記』＝

旅程約700里、期間132日、旅費一人10両

高階秀爾著『日本美術を見る眼』（岩波現代文庫）に日本と西欧の「旅」についての観念の違いが書いてある。

日本：旅＝日常生活とは異なった環境において、自然や人間世界と様々な関わり合いながら、時間的、空間的に連続して展開していくもの。

巡礼＝文字通り巡る旅であって、直線的でなく、円環的。終点はもとの場所であるから、どこか目的地へ行くことよりも、巡ること自体が目的。

西欧：旅＝日常生活とは別な場所へ行くことであり、重要なのは、途中の経過よりも行きついた場所の体験。

巡礼＝はっきりした目的地（イエルサレム等）が成立し、その終点に向っての直線的な旅。

さてさて、今回紹介する磐城郡泉崎村の農民大馬金蔵ら6人の「伊勢参宮道中記」はまさに、日本人の“旅”であり“巡礼”だったようです。天明年間のいわき地方は、天明2年5月霖雨冷

伊勢参宮道中記路程図

天明6年2月4日～6月17日

